

販売物のご案内

◆水俣展総合パンフレット 定価1500円(税込)、A4判、96ページ、編集・発行／水俣フォーラム

水俣展の図録ともいえるべきグラフィックな水俣病事件のエッセンス。「水俣展の構成」「水俣病の表現」「水俣展の記録」の3部構成で、188点の写真を用いて水俣病をわかりやすく解説。

序文……………石牟礼道子「形見の声」
 テーマ解説……………原田正純、色川大吉、土本典昭、日高六郎、富樫貞夫、ほか
 患者のこぼれ……………緒方正人、坂本しのぶ、杉本栄子、川本輝夫
 水俣展によせて……………筑紫哲也、柳田邦男、澤地久枝、見田宗介、伊藤比呂美、C.W.ニコル
 写真……………ユージン・アイリーン・スミス、桑原史成、芥川仁、塩田武史、ほか
 美術……………丸木位里・俊、中村正義、秀島由己男
 ガイドと目録……………映画、書籍、音楽、物産
 このほか、反響の大きい展示や水俣展の論評記事、展示物一覧、略年表、地図も収載。



◆写真集「僕が写した愛しい水俣」 定価2592円(税込)、A5判、138ページ、写真140点

撮影・文／塩田武史、水俣病解説／実川悠太、刊／岩波書店、協力／水俣フォーラム
 大型写真雑誌「アサヒグラフ」の特集や、土本典昭監督の映画「水俣」シリーズのスチールとして、多くの支持を得た塩田作品が、定評ある「岩波の写真集」の1冊に。

- | | | |
|----------------|-----------|-----------|
| 1. すべてはここから始った | 4. 宝子 | 7. 闘う |
| 2. 海辺に生まれて | 5. 半永君の帰宅 | 8. 歳月 |
| 3. 初めて出会った患者 | 6. 野球少年 | 付録: 水俣病年表 |



◆岩波新書「証言 水俣病」 定価778円、新書判、224ページ、編／栗原彬(水俣フォーラム)

水俣・東京展で行われた患者10名の講演。病苦を抱えながら加害者と闘い続けた患者。彼らはどう生き、われわれに何を問いかけているのか。その語りが時代の感受性を問う。年表・文献目録つき。

序章「死者と未生の者のほりから」栗原彬

- | | | |
|---------------|-----------------|----------------|
| 第一章 悲劇のはじまり | 「幼い妹が「奇病」に」下田綾子 | 「一家全滅の淵から」荒木洋子 |
| 第二章 隠された被害 | 「漁を奪われて」荒木俊二 | 「故郷を離れて」大村トミエ |
| 第三章 みずから立ち上がる | 「一人からの闘い」川本輝夫 | 「苦渋の選択」佐々木清登 |
| 第四章 水俣病とともに | 「水俣の海に生きる」杉本栄子 | 「部落に救われて」仲村妙子 |
| 第五章 現代を問う | 「故人たちとの再会」木下レイ子 | 「魂のゆくえ」緒方正人 |



【お申し込み方法】

添付の郵便振替用紙に必要事項を記入し、代金に送料を加えてお振り込み下さい。入金のお知らせが着き次第、発送いたしますが、お振り込みからお届けまで1週間ほどかかりますのでご了承下さい。

送料は上記のいずれも1冊150円です。

上記を組み合わせた場合の送料、大量のお申し込みなどは、下記にお問い合わせ下さい。

認定NPO法人 水俣フォーラム

【設立経過】

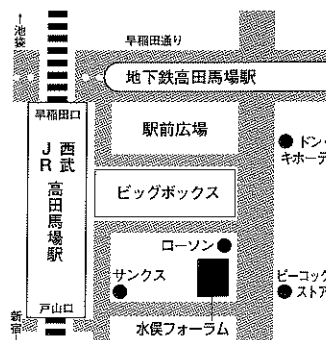
- 1992年 5月 水俣・東京展実行委員会発足準備会、土本典昭、実川悠太らにより活動を開始。
- 1994年 5月 水俣・東京展実行委員会発足。評議員に石牟礼道子、原田正純ら。後に会員1,655人。
- 1996年 9月 水俣病についての初の展覧会「水俣・東京展」を開催。入場者30,000人を超える。
- 1997年10月 水俣・東京展実行委員会をもとに水俣フォーラム発足。初代代表に栗原彬。
- 2001年 4月 NPO法人として登記。
- 2007年 5月 税制上の優遇措置を公認された認定NPO法人となる。

【代表者】

代表: 実川悠太(専任)
 副代表: 東郷佳朗(神奈川大学准教授、法社会学)
 副代表: 関口清(川崎市水道局職員)

【事務局】

事務局長: 服部直明(専任)
 非常勤: 大八木勉、和田鈴子、木村奈緒
 定期ボランティア: 郡山リエ、貞重太郎ほか



〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-34-12 竹内ローリエビル404 TEL 03-3208-3051 / FAX 03-3208-3052

E-mail: mf1997@minamata-f.com http://www.minamata-f.com 郵便振替【口座番号】00120-4-398614

2017.11

ご来場いただいた皆さまへ

水俣フォーラムにご入会下さい

本日はご来場いただき、まことにありがとうございました。私たちは全国各地の方々にご協力いただいて、1996年より水俣展の開催をすすめています。

水俣病はその発生よりすでに60年以上経過しましたが、行政責任が確定して以降、ふたたび患者の方々から新たな認定申請が続いています。一方で、この不幸で貴重な経験から、私たちの社会はまだ多くを学んでいません。大変残念なことに福島原発のメルトダウンはその証左でありました。

だからこそ多くの方々とともに水俣病について学び、「近代とは何か」「人間とは何か」あらためて問い直したいのです。これを機会に水俣フォーラムにご入会下さいますようお願いいたします。



公園として整備された水俣湾埋め立て地の下には今も高濃度の水銀ヘドロが存在する。患者さんたちが建立したお地蔵さんは何を語るのか。撮影：証言司

水俣展開催趣意書 公害の原点といわれる水俣病が南九州の片隅で発見されたのは、経済白書が「もはや戦後ではない」と謳った1956年のことでした。以後、被害者の運動やさまざまな裁判、調査、研究によって水俣病事件は少しずつ明らかにされてきました。それは、直接の被害者でも加害者でもない私たちにとって、この社会を考える上で、たいへん示唆に富むものでした。

加害企業チッソの技術力は、世界の化学工業界の中でもトップクラスにありました。その生産過程で副生された原因物質のメチル水銀は、自然界にはまず存在しないものであり、わずか耳かき半分ほどで人を死に至らしめる猛毒でした。水俣湾をつつむ不知火海は、沿岸漁民の主食ともいべき魚介類の宝庫でしたが、ここに注ぎ込まれたその総量が一億国民を二回殺してもなお余りあるほどに至るまで、チッソの生産活動はつづけられました。

原因をそれと知りながら隠蔽しつづけたのはひとりチッソに限りません。近代民主国家を標榜するわが国行政は、同じ工程をもつ他企業への問題の波及、化学工業界への打撃、ひいては工業化政策全体の遅延を恐れて加害企業を庇護しました。新潟水俣病の発生は、いわば必然だったのです。その一方で、排水停止と謝罪を求める被害民に対しては、警察力をもって応えたのでした。困窮の極みにあった被害民に対して、市民もまた白眼をもって接し、革新勢力や宗教家さえ救いの手をさしのべようとはしなかったのです。

その後も行政は、患者補償金支払いの継続確保という名目でチッソへの格別の融資を続行する一方、医学界の権威を動員して病像を狭く限定することによって、万を数える被害民の苦痛を否定しつづけてきました。

地球環境保全が声高に叫ばれるに至ってようやく成立した未認定患者の救済策をみても、この構造に本質的な変化があったとはいえません。これらの事実から、企業、国家、科学、ひいては現代社会全般のありようを再検討しなければならないことに気付きます。

しかし、水俣病の発生原因それ自体であるチッソの生産活動およびこれに類する経済活動、技術開発によって、現在の化学工業の成長と日本の経済的発展、「便利で豊かな生活」がもたらされたのは否定しようもない事実です。そしてそれはこの国だけのことではありません。世界中が、数えきれないほどの「水俣病」を生みだしながら近代工業化、産業の高度化を競っています。こと水俣病から目を転じて、この「近代科学技術による工業生産を基盤とした民主主義国家システム」がもたらす多くの矛盾や危機の具体例は、枚挙にいとまがありません。しかし、それを乗り越えるための具体的な方法については、誰ひとり解答をもっていないという状況の下、社会の病状は静かに進行しています。最大多数の最大幸福の追求が、少数者への苛烈な抑圧を生みだすのみならず、結果として多くの現代人の内に、人としての存在の希薄化と関係性の腐食をもたらし始めています。

21世紀、日本。いま私たちは、このような時代の中で生きているのです。

思いおこせば、壮絶な病苦と疎外、それゆえの貧困の極みにありながら、果敢に声を上げていった方々のやさしさと巨きさによって、私たちは支えられ援けられてきたのではなかったでしょうか。そうした方々の言葉にあらためて耳を傾け水俣病を問い直すことは、私たちがこれから先、どのように生きていくかを考える上で少なからぬ果実をもたらすことでしょう。水俣病に関するすべての表現、研究、記録をひもとき、状況に照らしてこれらを再構築し、今を生きるすべての人に伝えたいのです。

水俣病発生の公式確認より半世紀をへて「水俣展」といべきものの開催です。この会場によみがえる水俣の言葉や表情、風景の一片でもご記憶の片隅にお加えいただければ幸いです。

水俣フォーラム

02		払込取扱票										通常払込料金 加入者負担																									
口座記号										口座番号(右詰めで記入)				金		千		百		十		万		千		百		十		円							
001204										398614				額																							
加入者名										水俣フォーラム										料		金		特殊													
通										●会費										●水俣展(総合パンフレット)																	
信										正会員6000円×年度から年分=円										1500円×冊=円																	
欄										賛助会員5万円×年度から年分=円										●写真集「僕が写した愛しい水俣」																	
										●寄付円										2592円×冊=円																	
										●その他として円										●岩波新書「証言水俣病」																	
										●送料円										778円×冊=円																	
										お名前前のふりがな										●水俣病図書目録																	
																				800円×冊=円																	
ご依頼人										おところ(郵便番号)										受付局日附印																	
										おなまえ										様																	
										(電話番号)																											
裏面の注意事項をお読みください。																																					
これより下部には何も記入しないでください。																																					

郵便振替払込請求書兼受領証

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

001204										通常払込 料金加入 者負担																													
398614																																							
加入者名										水俣フォーラム																													
金										千										百		十		万		千		百		十		円							
額																																							
おなまえ																																							
ご依頼人																																							
料																				受付局日附印																			
金																																							
特殊取扱																																							

活動内容

「水俣展」……全国各地で開催をつづける水俣病についての展覧会

・東京展：東京都(品川駅前開発用地)	96年9月28日～16日間	30,083人
・豊橋展：愛知県(豊橋市民文化会館)	98年8月26日～5日間	3,800人
・おおさか展：大阪府(ATCミュージアム)	99年9月4日～16日間	6,829人
・沖縄展：沖縄県(沖縄コンベンションセンター)	99年9月26日～7日間	13,081人
・浜松展：静岡県(アクトシティ浜松)	99年10月9日～9日間	6,317人
・東京展2000：東京都(東京都写真美術館)	00年7月20日～16日間	6,279人
・佐伯展：岡山県(佐伯町学び館・サエスタ)	01年5月5日～9日間	5,036人
・水俣病展：熊本県(水俣市立総合体育館)	01年10月12日～10日間	4,387人
・名古屋展：愛知県(名古屋市科学館)	02年11月16日～45日間	8,064人
・川崎展：神奈川県(アートガーデンかわさき)	04年1月6日～30日間	9,298人
・札幌展：北海道(北海道大学学術交流会館)	04年5月30日～16日間	9,346人
・貝塚展：大阪府(貝塚市民文化会館)	06年1月13日～10日間	3,568人
・和光大学展：東京都(和光大学体育館)	06年9月15日～10日間	2,417人
・新潟展：新潟県(新潟市美術館)	08年8月2日～20日間	3,202人
・千葉展：千葉県(千葉県勤労者福祉センター)	08年12月10日～19日間	2,339人
・明治大学展：東京都(明治大学駿河台キャンパス)	10年9月4日～16日間	6,483人
・福岡展：福岡県(JR九州ホール)	13年5月15日～13日間	4,774人
・岐阜展：岐阜県(岐阜市民会館)	14年11月22日～9日間	2,367人
・水俣病展2017：熊本県(熊本県立美術館分館)	17年11月16日～22日間	

この他、つくば市、山形県高畠市町、埼玉県川口市、金沢市、福島県白河市で開催
「水俣病大学」……医学、法学、経済など、全関連領域30コマの集中講義を大学で開講
「水俣病記念講演会」……水俣病発生の公式確認の日、5月1日前後に毎年開催
「水俣セミナー」……都心の会場に多彩な講師をお呼びして平日夜開催
「水俣病読書会」……水俣病の基礎文献を20～30人の参加者が2～3ヶ月かけて読む
「水俣への旅」……初めて訪れる方を対象に3泊4日で毎年催行。定員10～30名
「水俣フォーラムNEWS」……97年12月創刊、毎年発行、A5判80ページ程度
「水俣病ライブラリー」……水俣病に関する書籍・映像・講演録音の閲覧・貸し出し
水俣病に関する研究会の開催……様々なテーマを取り上げ専門家を招いて不定期に開催
水俣病に関する講演……講師の派遣・紹介、講演会資料の作成、企画の相談など
水俣病資料の提供……書籍・映像などの企画・編集・製作の際、助言・紹介・協力も
水俣病関連企画への助言・相談受付……出版・放送・研修など対象

入会と寄付のお願い [会費：年6,000円] [賛助会費：年50,000円]

- ・「水俣フォーラムNEWS」をお届けしたり関連の催しをお知らせします。
 - ・水俣病関連の図書、ビデオなどの貸出をします。
 - ・認定NPO法人のため、寄付と賛助会費は所得税控除の対象となります。
- 水俣フォーラムは、会員の方々からいただく会費を活動資金のベースにしています。2017年7月末現在、879名の会員によって構成されていますが、安定した運営のためには2000名の方の参加が必要で、不足分は特定の企業・団体などをお願いしての寄付と助成金、さらには借入金に頼っているのが実状です。そこで皆さまに会員としてのご参加をお願いする次第です。

なお、会費は年額(4月～翌年3月を会計年度)ですが、運営の安定と事務作業の簡素化のため、一度に複数年度分お支払いいただけると助かります。会費、寄付のご送金には本紙添付の郵便振替用紙をご利用ください。

【評議員】

青山俊介	環境コンサルタント
北川フラム	アート・フロント・ギャラリー代表
栗原 彬	立教大学名誉教授、政治社会学
土屋恵一郎	明治大学教授、法哲学、能楽評論
富樫貞夫	熊本大学名誉教授、水俣病研究会代表
畠山武道	北海道大学名誉教授、行政法
見田宗介	東京大学名誉教授、社会学
柳田耕一	NPO法人地球緑化の会事務局長

【主な会員・呼びかけ人】

赤木洋勝	元・国立水俣病総合研究センター
池澤夏樹	作家
石牟礼道子	作家
磯崎 新	建築家
いとうせいこう	クリエイター
伊藤比呂美	詩人
色川大吉	東京経済大学名誉教授、歴史学
上田紀行	東京工業大学教授、文化人類学
上野千鶴子	東京大学名誉教授、家族社会学
大澤忠夫	元・はんのうれん事務局
緒方正人	漁師、水俣病患者、水俣・本願の会
岡本達明	元・新日窒水俣工場労働組合委員長
奥田愛基	元・SEALDs、一橋大学院生
おすぎ	映画評論家
加藤典洋	早稲田大学名誉教授、文芸評論家
金子 勝	慶應義塾大学教授、経済学
上條恒彦	歌手、俳優
香山リカ	立教大学教授、精神科医
川本愛一郎	水俣病患者家族、作業療法士
甲野善紀	武術家
小宮悦子	キャスター
是枝裕和	映画監督
崔 洋一	映画監督
澤地久枝	作家
潮谷義子	前・熊本県知事
C.W.ニコル	作家
杉本 肇	水俣病患者家族、漁師、芸人
高倉史朗	ガイアみなまた
高橋源一郎	作家
高峰 武	熊本日日新聞取締役論説顧問
田口ランディ	作家
竹下景子	女優
田中優子	法政大学総長、近世文化
坪倉善彦	NHK報道局アナウンサー
中島岳志	東京工業大学教授、政治学
中村桂子	生命誌
萩尾望都	漫画家
ピーター・バラカン	ブロードキャスター
平田オリザ	劇作家
水戸岡鋭治	工業デザイナー
宮本憲一	日本環境会議代表、経済学
森 達也	ドキュメンタリー作家
森 まゆみ	作家
柳田邦男	ノンフィクション作家
山田太一	脚本家
山田 真	小児科医師
吉井正澄	元・水俣市長
吉永利夫	水俣病を語り継ぐ会
吉永理巳子	水俣病患者
若松英輔	批評家
渡辺京二	評論家、歴史家